

— 伊勢神宮御正殿 —

阿蘇神社 <http://asojinja.jp/>

報社
あそみや

平成21年11月1日

第 4 6 号

発行所

阿蘇神社社務所

多良見町化屋862

☎ 0957-43-5235

式年遷宮

阿蘇神社

宮司 大島 大明

伊勢神宮は正式には「神宮」と称し、天照皇大神を祀る内宮と、豊受大神を祀る外宮を中心に、別宮・摂社・末社・所管社など二二五社をまとめて神宮と称します。

神宮では二十年ごとに御社殿を造り替え神様をお遷しいたします。これを式年遷宮と云い、古い御社殿は解体され、全国の神社の御造営の資材として再生されます。

式年遷宮では神殿の他に、御神前に供える御神宝や殿内の装飾品など八〇〇種を越える工芸品はそ

の時代を代表する職人の手により前回と同じ物が作製されます。

神風の伊勢の宮居のみや柱
たてあらためん年は来にけり

明治天皇の御製

戦前までは国の大切な祭事として全て国費で行われていましたが、戦後は全国の神社・総代会が中心となり浄財を募っています。

六十二回目の式年遷宮は、平成二十五年秋に斎行されます。

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培い、大平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向ふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

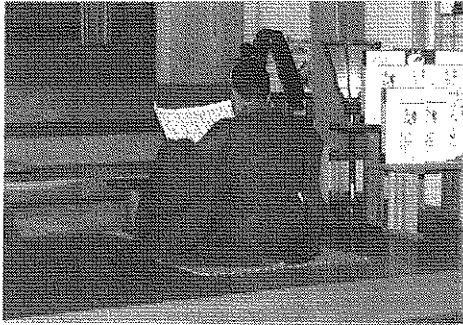
- 一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、
- 一、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
- 一、世のため人のために奉仕し、
- 一、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 一、大御心をいただきてむつび和らぎ、
- 一、国の降昌と世界の共存共栄とを祈ること

阿蘇神社例祭を齋行!!

十月十五日、阿蘇神社の例祭が齋行されました。

例祭(例大祭)は神社が創建された記念日であり、今年(御鎮座四七五年)となります。戦国時代の天文三年(一五二四)に、当時喜々津の領主であった西郷石見守が熊本県一の宮の阿蘇神社より御分霊を受け、喜々津の総鎮守として祠を建立し祀られた日であります。

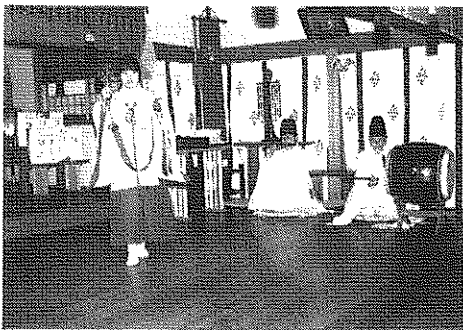
定刻(宮司以下)祭員が参進、御本殿の御扉を開き、神饌とともに神社本庁の幣帛料・長崎県神社庁の玉串料も神前に供えられました。



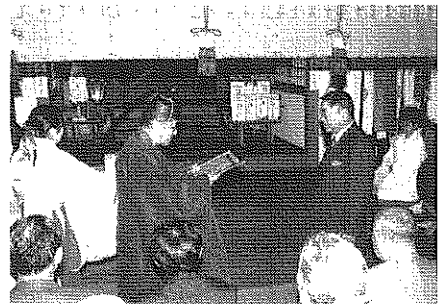
—宮司による祝詞奏上—

祭典では宮司が感謝と更なる御加護を祈念する祝詞を奏上、引き続き巫女が笛太鼓に合わせ、長崎地方に伝わる里神楽の舞を奉納しました。次ぎに宮司以下参列者の代表者が玉串を捧げ拝礼をし、平成二十一年の例祭は恙なく終了しました。

祭典終了後、向拝の鈴の緒を新しく奉納された方へ感謝状の贈呈、また去る九月四日の長崎県神社総代会中央研修会で天皇陛下御即位二十年を記念し授与された表彰状の伝達式が行われました。



—神楽舞奉納—



—鈴の緒奉納者へ感謝状贈呈—

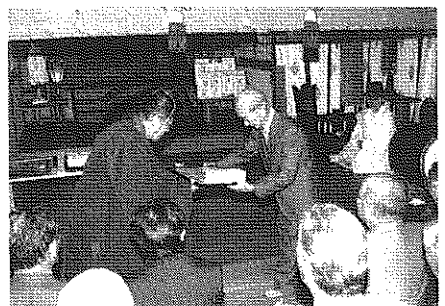
今般の記念表彰は多年に亘り神社に貢献された個人・団体及び五年以上勤続の神社総代へ「天皇陛下御即位二十年記念表彰」として授与されたものです。

◆感謝状贈呈者◆

- ☆向拝鈴の緒奉納 大野 隆 殿
- ◆天皇陛下御即位二十年記念表彰 個人部の部☆
- 株式会社森開発・森 強 殿

☆団体の部☆

- 多良見町商工会 殿
- 老人会誠会・相良 信義 殿
- 阿蘇神社奉納相撲実行委員会 会長 松尾 義光 殿
- ☆神社総代の部☆
- 前田信太郎 殿 / 吉野 徹 殿
- 松尾 清人 殿



—記念表彰の伝達—

例大祭に際し左記の通り御献納を賜りました。ご芳名を記しお礼を申し上げます。(順不同・敬称略)

◇幣帛料 神社本庁

◇初穂料 長崎県神社庁、(株)森

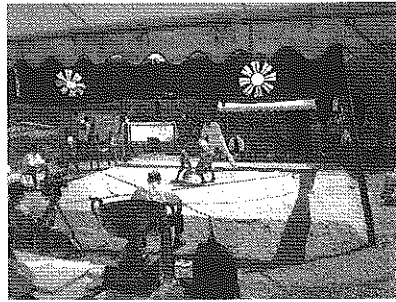
- 開発・森 強、誠会・相良信義、北島守幸、岩崎征忠、石場一広、森山 仁、松尾義光、小川 晃、白石幸男、松崎章雄、山中征二、内田克夫、坂口勝明、木下 剛、福井英俊、山田豊明、溝上 豊、吉野 徹、松尾清人、宮嶋 博、大久保治賢、松山弥八、溝上盛夫
- ◇献 酒 十八銀行多良見町支店長・松永徳治、親和銀行多良見支店長・前田圭介、たちばな信用金庫多良見支店長・中島将博、永留 剛

以上

奉納相撲大会終了!!

去る九月十三日に恒例の奉納相撲大会が開催されました。町内外より多くの子供が参加し、団体戦・学年ごとの個人戦・抜き相撲などが行われ、神社の杜は終日賑わいました。

この他に近隣各町より参加した子供チームにより、町對抗戦・抜き相撲も行われました。また諫早農高・長崎鶴洋高の相撲部も参加して、全国レベルの迫力ある相撲を披露していただきました。



一熱戦が続いた子供相撲一

- ▼地区対抗戦
 - 優勝 木床 A
 - 準優勝 市布
- ▼個人戦
 - ◆一年生の部
 - 優勝 渡辺恒成(木床)
 - 準優勝 松山優佳(木床)
 - ◆二年生の部
 - 優勝 藤山恵緑(丸尾一区)
 - 準優勝 竹下翔大(市布)
 - ◆四年生の部
 - 優勝 外辰勝(市布)
 - 準優勝 松山あかり(木床)
 - ◆五年生の部
 - 優勝 前田光貴(市布)
 - 準優勝 高群雅光(市布)
 - ◆六年生の部
 - 優勝 山崎翔平(木床)
 - 準優勝 松山優樹(丸尾一区)

例年相撲大会の開催に尽力いただいている阿蘇神社奉納相撲大会実行委員会(松尾義光会長)の皆様方、また抜き相撲へ商品の提供をいただいた商店、運営費の協賛をいただいた関係各位に対し心より感謝を申し上げます。今後とも伝統ある阿蘇神社の相撲大会が継続されますよう、ご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

神社 Q & A

厄入と厄払

人生の大厄は男は四十二才、女は三十三才といわれます。四十二才は「死に」通じ、三十三才は「サンザン」との語呂も一理あるようですが、ともに精神的・肉体的に負担が多く苦勞する年回りであることに違いありません。

全国的には前厄・本厄・後厄と三年間を厄年として厄除け祈願を行っていますが、西九州(長崎と佐賀及び福岡の西部と熊本の一部)では厄入(入厄ともいう)・厄払(厄晴または晴厄)と二年間で厄年を終えることになっています。

男は数え年の四十一才で厄入となり、女は数えの三十三才で厄入になります。男は四十二才が本厄の年で有るにもかかわらず、一年早く厄入を行うことになり、近年なぜなのかと問い合わせが多いようです。これと言った説明も出来ず「昔からの風習です」と答えるのみで申し訳なく思っています。



願主と御神酒

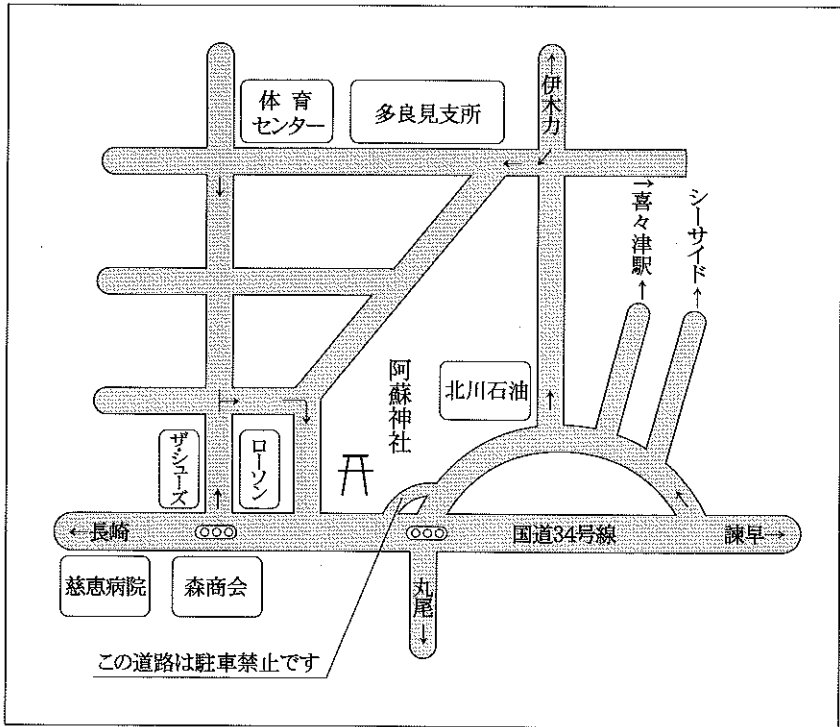
願主は本人と共に参拝したり、本人に代わって参拝をし、祈願を行う人です。厄入の場合は、本人が一人で厄を背負い込むのは大変だろうと、本人の厄の一部を引き受けてやろうというのが、願主の務めといえます。厄入

には願主の他に付き添いが同行したり、祈願後は真つ直ぐ家に帰らず宴席を用意するようですが、これも厄を皆で分かち合い、本人の負担を軽くしてあげたいとの思いからです。このように願主は他人の厄を引き受けるわけですから、厄年本人と住まいが別の人に引き受けてもらいます。

酒は一般的に二本を「奉獻」と記し持参します。一本を神前に供え、もう一本は「御神酒」としてお下げします。これを持ち帰り祈願後の宴席で御神酒として使用します。団体祈願で御神酒を二本希望される場合には、三本持参して下さい。

七五三詣は阿蘇神社へ!!

男女三才を『髪置』、男児の五才を『袴着』、女児七才を『帯解』または『紐解』と称し、いずれも子供の健やかな成長を願う行事です。ご家族お揃いでご参拝下さい。



平成二十一年の七五三祝 数え年
 男女 三歳 平成十九年生
 男女 五歳 平成十七年生
 女 七歳 平成十五年生

◆十一月八日(日曜日)、十四日(土曜日)、十五日(日曜日)の三日間は七五三を中心に行われます。☆受付時間 午前十時〜午後三時 これ以外の日にご参拝予定の方には、出張祭典などで留守をすることもございますので、お手数ながら事前に連絡をお願いします。

S総代会便りS

神社総代及び今年度の総代会の監事が交代しました。

◇総代異動 四月一日付

退任

西川内 松尾龍義 殿

就任

西川内 溝上盛夫 殿

◇総代会監事異動

去る五月二十七日に開催された評議員会で今年度の監事は左記の通り選任されました。

監事新任

西川内 小川 晃 殿
 停車場 溝上 豊 殿

■編集後記■

本号より題字を改めました。発刊時は自ら筆を執るのもおこがましく、他人任せにしておりますが、今般読者からのご意見もいただき自書いたしました▼顧みれば平成二年正月に創刊し、爾来号数を重ねては来ましたが、相変わらずの編集で恥し入るばかりです▼八月の衆議院議員総選挙では民主党が大躍進、政権交代で国民の暮らしはどのように変わるのか注視したいと思えます▼曆の上では霜降、冬も間近になりました。ご自愛專一にお過ごし下さい。